ロッキー通信No.24

「プライオン　思いを力に！」

学校教育目標：「豊かに育つ生徒」
～「挑戦」と「創造」～
校　　訓：「求学・親和・創造」

R7.12.19（金）発行　文責　校長　六山　和弘

令和７年度　西大村中学校「人権集会」を開催しました。

当初、１２月１１日（木）に開催予定であった「人権集会」を１２月１７日（水）に開催しました。それぞれの内容について報告します。

令和７年度　人権集会

１　目　的

（１）　人権について知り、人権に対する自分の考えを振り返ったり、他の人の考えに触れたりする中で、人権意識を図り、さまざまな人の立場に立って考えようとする態度を育てる。

（２）　学校生活のみならず、社会の中においても、いろいろな人が支え合って生きる共生社会の一員としての自覚をもたせる。

（３）　学校生活や各学年・学級での人権学習を振り返り、人権尊重の気持ちを標語として表わし、自分の思いを周りの人へ発信する。

２　事前学習として

（１）１１月２０日（木）４校時：道徳

【第１学年】
題材：「３人の乗客」
目標：理解し合うとは、自己中心的になる人間の弱さも含めて分かり合うことであると自覚し、寛容の心をもって相互理解しようとする態度を育てる。

【第２学年】
題材：「コトコの涙」
目標：相手の考えや立場を尊重し、他者と謙虚に向き合うことで、素直に自らの言動や考え方を振り返り、他者から謙虚に学ぼうとする態度を育てる。

【第３学年】
題材：「いじりって」
目標：自らの言動や考え方を振り返り、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることで、自己の他者との関わり方を見つめようとする態度を育てる。

（２）１１月２０日（木）５校時
３学年共通：人権アンケート、人権標語の作成

３　人権集会の内容

（１）開会の言葉（人権実行委員長）
（２）校長の言葉
（３）アンケート結果・考察の発表
（４）人権標語優秀作品の発表
（５）人権啓発ビデオ視聴
「わたしたちの声　３人の物語　リスペクト　アザース」
（６）人権作文入賞者の発表（２年２組　原　龍ノ介さん）
「不登校を乗り越えて見えた人権の意味」
※第４４回全国中学生人権作文コンテスト長崎県大会にて優秀賞（NCC長崎文化放送賞）を受賞
（７）西中人権宣言（人権実行委員）
（８）閉会の言葉（人権実行副委員長）

４　人権集会実行委員として活躍した生徒　　◎：実行委員長　○：副委員長

	１年	２年	３年
１組	安田　晴翔 さん	片山　華　さん	◎山口　結衣 さん
２組	篠田　優真 さん	内野　雄稀 さん	中山　多聞 さん
３組	山田　桜汰 さん	○永吉　泰博 さん	松尾　華音 さん
４組	山口　奏大 さん	田中　蒼空 さん	土井　咲空 さん
５組	永石　ゆうり さん		
６組	中村　維吹 さん		

令和７年度　西大村中学校人権宣言

一、私たちは、一人ひとりの多様な個性を尊重し思いやりのある行動をします。
一、私たちは、人を傷つける言動は絶対にしません、許しません。
一、私たちは、周りの人や物への感謝の気持ちを大切にします。
一、私たちは、差別や偏見がない社会を実現するため、学び続けます。
一、私たちは、自分らしく生きることのできる環境をみんなでつくっていきます。

令和７年１２月１７日
西大村中学校　人権実行員会

◎「人権集会」での素敵な作品を紹介します

「不登校を乗り越えて見えた人権の意味」

原　龍ノ介

私は小学生の頃、学校に行けなくなった時期がありました。

きっかけは、ある朝学校に行くのが「だるいな」「面倒くさいな」と思い、休んでしまったという些細なことでした。ですが、前から休みがちだったということもあり、最初は「一日だけ休もう」と思っていたのが、一週間になり、一カ月になり、気づけば一年と時間が過ぎていきました。学校に行かない間、私は常に心のどこかで不安を抱えていました。それは、「このまま一生学校に行けないのではないか」「学校に行かなかったら大人になったときどうなるのか」という将来への不安でした。ですが、「学校に行かなければならない」という思いとは逆に、「みんなにどう思われているんだろう」「学校に行けばもしかしたらいじめられるんじゃないか」という恐怖もあり、学校に行けないまま、時間だけが過ぎていき、時間が経つにつれ不安や恐怖も大きくなっていきました。

でも、二年ほどぶりに学校へ行った日、私の心は大きく動きました。先生や親、そして友達からの後押しもあり久しぶりに学校に行くことができました。教室に入るのが怖く心臓がドキドキと高鳴り、足が震えるほど緊張していました。そして、勇気をふり絞って教室のドアを開けた瞬間、私の不安や恐怖は大きく変わりました。みんなが普通に「おはよう」「久しぶり」と声をかけてくれたのです。特別なことはありませんでした。でも、その「普通」がどれほど私を安心させたか、言葉では言い表せません。みんなが変わらずに接してくれたことで「ここにいていいんだ」と思わせてくれました。

その時、私は大切なことに気づきました。人は、周りから認められることで自分の居場所を感じることができるということ。そして、それを守ることが「人権を大切にする」ということなのだと。この経験から、私は大きく成長しました。まず、自分が感じた不安や孤独を知ったことで、人の気持ちを想像できるようになりました。例えば、誰かが教室で一人になっていたら、私は声をかけたいと思います。「一人にさせないこと」や「普通に話しかけること」が、どれほど力になるのか知っているからです。

また、周りの人に対して、決めつけや偏見をもたず、学校に行けていない人や、集団に入れていない人を見たとき、マイナスなイメージを持つのではなく、「その人にも理由がある」と考えたいと思っています。そして、人にはそれぞれ事情があること、また、その気持ちを尊重することがどれだけ大切かを学びました。

以前の私は、「みんなと同じでいなきゃいけない」と思い込んでいた気がします。でも今は、「違っていて良い」と思えるようになりました。さらに、自分自身についても、「無理しなくて良い」と言えるようになりました。以前は、「休むことはあまり良くないこと」だと思っていましたが、今は「立ち止まることも大切」だと思えるようになりました。この考えを持てたおかげで、私は以前よりも前向きに過ごせています。困ったときには助けを求めていいのだと気づき、心が軽くなったのです。さまざまな経験を経て成長した今、私はこんな未来をつくりたいと思います。それは、誰もが安心して自分の居場所を感じられる世界です。学校でも職場でも、違うことで「仲間じゃない」と思われない、違いを責めるのではなく、認め合える社会。困っている人に手を差し伸べることが当たり前で、誰もが「ここにいていい」と思える未来です。

私もその一員として、周りの人を大切にし、思いやりをもてる人になりたいと思います。私は「人権」とは、ひとり一人が自分らしく生きるための権利だと思います。これからも、自分の経験を通して学んだ人権の大切さを多くの人に伝え、みんなで守っていける社会をつくっていきたいです。

◎人権標語優秀作品

【１年生】

“「知らない人」　その小さな壁で　見捨ててない？”	１組：永石　ひかり さん
“「ありがとう」　その一言が　笑顔の扉”	２組：塩谷　実禾 さん
“ぼくときみ　感じ方が　違うから”	３組：井田　大成 さん
“SNS　デジタルタトゥは　もう消えない”	４組：加藤　さくら さん
“たえないで　自分を守る　SOS”	５組：力石　陽太 さん
“考えよう　いじりといじめの　境界線”	６組：木村　颯汰 さん

【２年生】

“思いやり　心にさしてる　日の光”	１組：小野　仁菜 さん
“あなたは一瞬　わたしは一生”	２組：山口　怜依 さん
“なくしちゃおう　やさしさブラシで　汚いこころ”	３組：國保　大和 さん
“その言葉　謝られても　傷残る”	４組：山口　莉央 さん

【３年生】

“自信持ち　心を打ち明け　楽になる”	１組：田渕　真大 さん
“ぼくたちは　十人十色で　すばらしい”	２組：北御門　斗真 さん
“そのいじめ　君には一瞬　僕には一生”	３組：嵩　陽聖 さん
“それいじり　限度をこえると　傷になる”	４組：山田　一護 さん